

第1回市民自治推進委員会議事概要

- 1 日 時 令和3年5月24日（月） 9：30～11：00
- 2 会 場 鳥取市役所本庁舎 6階第5会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 神部委員、佐々木委員、佐藤委員、下澤委員、鈴木委員、椿委員、中川委員、中村委員、松本委員（五十音順）9名出席
 - (2) 鳥取市 鹿田市民生活部長
（協働推進課）谷口課長、宮谷課長補佐、福本主任、清水主任
（生涯学習・スポーツ課）川上係長
- 4 委嘱状交付
- 5 委員自己紹介
- 6 委員長及び副委員長の選出について
委員長 中川玄洋氏
副委員長 下澤理如氏 を選出
- 7 議 事
 - (1) 説明・報告事項
 - ①任期中の活動計画（案）について
（事務局）
【資料1】【参考資料1】【参考資料2】説明
 - （委員）

予定の中に参画と協働のまちづくりフォーラムの検討とあるが、この放送への反響についてまとめた資料があればいただきたい。

これまでのフォーラムでは、一堂に会しての開催というスタイルをとってきたが、違う形の開催方法も模索していいと思った。
 - （委員長）

前回のフォーラムのときは、新型コロナウイルス感染症のこともあり、当初予定していた人を集めての開催をやめ、何人かの委員の方や、大学の先生に入って

いただいて、ぴよんぴよんネットに収録と放送をしていただいた。

収録した内容は DVD に記録して公民館等に貸し出している。

(委員)

人を集めての開催は1回限りで終わりだが、最近はオンデマンドなど、都合のいいときに見ることができる時代に入ってきていると感じる。

みんなが集まって開催するというのも大切かもしれないが、色々な開催方法を考えていかないといけないと思った。

(委員)

公民館の研修会等にも活用していただき、意見をいただくというのもいいと思う。

(事務局)

フォーラムの部分は令和2年度市民自治推進委員会の意見書でまとめておられ、DVD という形で残すことで各地区が勉強したいときに活用でき、新型コロナウイルス感染症を気にせず見ることもできて良かった。一方で、見た人の反応を市として吸い上げられていない、感想が届いてこないところが課題だと思っている。

(委員長)

DVDを貸し出すときに、アンケートのフォーマット等も一緒に渡してもいいかもしれない。DVDの感想や、当日の研修会等の状況が把握できると思う。

フォーラム自体は令和4年度の開催を想定しているので、先ほどの意見も踏まえながら考えていくといいと思う。

(委員)

活動はあくまで目的が明確になっていないといけない。例えば今のフォーラムの話にしても、その目的は何なのかを明確にしたらおのずと活動も決まってくるが、活動から入るとなかなか見えない部分がある。目的を明確にしてから事業について議論していくという取り組みにしていきたい。

(委員長)

テーマの案が見えてくるといいと思う。

(委員)

小委員会は令和3年度に活動して年度末にとりまとめと記載されている。とりまとめたものを委員会で報告するのであれば、2月付近にも委員会があった方がいいと思う。

(事務局)

ここについては、市民活動団体やNPO等に対してどのような支援が求められているのかについて小委員会で審議してまとめてもらい、令和3年度末の委員会で内容を共有することを考えている。それも踏まえて、令和4年度に市としてどういったことができるのかということも議論していきたいと考えている。

また、小委員会も1年間で審議がまとまらなければ、引き続き行うことも想定しており、令和4年度の予定を未定としている。

(委員長)

10月の本委員会で報告をして、ある程度の方向感が見えていることを示しつつ、翌年2月の委員会で最終的な報告をするというイメージでよいか。

(事務局)

このスケジュールはまだ案の状態であるため、小委員会の開催日程が記載のとおりでいいのかについても、小委員会で審議していただけたらと思っている。

(委員長)

市民まちづくり提案事業や表彰のところでは、なかなか手が挙がらなくなってきたおり、団体数が少ない中で選ばなければならない実情がある。そのため、その制度や予算の組み方も含めて話をした方がいいと思っている。予算の組み方の話にもなるので、もし制度を変えるまで話が進むようであれば、おそらく10月ぐらいの段階で、本委員会と情報を共有し、2月に着地はするものの、そこは小委員会を開催するイメージでいた方がいいと思う。

②鳥取市の「協働のまちづくり」の取組について

(事務局)

【資料2】【参考資料3】説明

(委員)

佐治が指定管理者制度を導入して良くなった点や問題点について、ある程度情報を流してもらえるとありがたい。

(委員)

一括交付金制度について、今年度新たに4地区が導入を希望されたが、他に関心を示している地区はあるか。

(事務局)

地域からのお声があれば制度の説明に伺っている。国府の大茅地区から声があり、説明にも伺ったが、もう少し検討してから導入したいとのことだった。

(委員)

一括交付金制度の課題はどんなものがあるか。また、その解決に向けて何か動いているのだろうか。

(事務局)

一括交付金は令和元年度から明治・用瀬・佐治の3地区が導入されているが、大きな課題は見つかっていない。

補助金等を一本化し、金額は増えないものの、柔軟に使えるようになったという声はいただいている。一方で、これまでは公民館が色々な事業を企画して市民は参加するだけだったが、企画の段階から市民のみなさんが関わられているというところがあって、少し会議が増えたという声もあったが、これは住民のみなさんが事業に参画する機会が増えたためであり、前向きな課題ではないかと思っている。

これまでは中山間地域が取り組んでいるというイメージを持たれている部分があったが、城北地区が導入するということで、中山間地域以外の地区からも関心の声が挙がっており、実際に説明に伺っている。

(委員)

会議の回数が増えて負担になる部分もあると思うが、自分たちの地域をどうしていくかということは役員の方々で考えていくものではないため、地域住民が一緒になって考えていく機会が増えるということはいいことだと思う。生きたお金の使い方を自分たちで考えていくいい機会となると思うので、導入する地区が増えていくとよいと思う。

(2) 協議事項

①市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門)審査会委員の選出について

(事務局)

【資料3】説明

(委員長)

設立3年未満の団体が対象という制度なので、対象となる団体がそもそもその情報をつかめていないのではないか。

(委員)

この助成事業があるということはこの委員会で初めて知ったので、知らない方が多いと思う。もし、申請がないという状態が続くようなら、もう少し周知に力を入れてもらえたら対象となる皆さんも喜ばれると思う。

(委員)

こういった補助制度の情報は、どういうルートで地域や市民に周知されているのだろうか。

(事務局)

まちづくり提案事業は市報にて周知している。市民活動促進部門については、ボランティアセンターに募集の委託をしており、そこから募集要項などを各所に配布している。

協働事業部門については、市報のほか、地区公民館や各総合支所などを通じて資料を掲示しているため、そういった場所を訪れる機会のない方の目には触れにくいと思っており、検討課題であると認識している。

(委員長)

比較的若い人たちがまちづくりに取り組むとき、ほとんどが社会福祉協議会にもボランティアセンターにも行かない状態で自主的に始めていることが多い。

すでに動いている団体に対して制度を紹介してくれるような団体も活用してはどうだろうか。全体的に周知しただけでは、あまり反応がないと思う。補助金の枠も少ししかないので、個別にお話しができればよいと思う。

(委員)

とっとり県民活動活性化センターでは、鳥取市社会福祉協議会からの情報ではなく、鳥取県社会福祉協議会から、こういうのを案内してほしいという連絡がある。そちらは県内の各団体に情報発信をしている。

(委員長)

鳥取市社会福祉協議会からとっとり県民活動活性化センターの東部担当の人

にいくつかのチラシを渡して、個別にお話ししてきてほしいとお願いする方が早いかもしれない。

※審査会の委員は、立候補により下澤委員に決定。

②市民活動に関する小委員会の設置について

(事務局)

【資料4】説明

(事務局)

小委員会のメンバーは事務局で検討しており、市民活動やNPOに関して関わりがあると思われる方にお声かけさせていただきたいと考えている。

(委員長)

事務局からお声がかかった場合はご協力をお願いしたい。

(委員長)

最近の4年間はまちづくり協議会などが議題の中心となっていたので、NPO・市民活動の部分について小委員会で整理させていただいて、また皆さんにお話しできる状況にもっていったらと思う。

(3) その他

(委員長)

次回の日程について、事務局からお願いしたい。

(事務局)

今回は、小委員会を6月末ごろに予定しており、委員会は7月末頃を予定している。また今回と同様に日程調整をさせていただく。